

世界に学ぶ ～届け幸せのメッセージ～

所属	愛知県豊明市立沓掛小学校	実践者	野々山 尚志
対象	小学校6年生(96名)	時間数	28時間
場所	教室・多目的スペース	実践教科	総合的な学習の時間・学級活動 ・外国語活動・(家庭科)
ねらい	<p>テーマ【つながり、人権、コミュニケーション、課題解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本とのつながりに気付き、世界に関心をもつ。 ・多様な価値観や文化を知り、肯定的に捉える。 ・課題解決の方法を知り、自分たちにできることを考え、発信する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	1 世界に目を向けよう(5時間) ・世界と自分たちのつながりを知るグローバルビンゴ 2-3 ・世界がもし100人の村だったらワークショップ【シミュレーション】 4 ・パラグアイに折り紙と絵を届けよう 5 ・日本と途上国とのつながりについて知ろう【フォトランゲージ】 2 日本と世界のつながりに気付こう(4時間) 6 ・日本と世界とのつながりを知ろう～パラグアイ編～【フォトランゲージ・対比表】 7 ・日本と世界とのつながりを知ろう～日本の食事編～【ランキング】 8 ・チョコレートの真実 9 ・ジャガイモさんとお友だち(知ることは身近になる)【ロールプレイ】 3 多様な価値観や文化を知り、よさを知ろう(4時間) 10 ・日本とパラグアイの子どもの大切なもの【ピラミッドランキング・対比表】 11 ・キニ先生にインドについて聞いてみよう 12-13 ・外国人観光客になりきってインタビューをしよう【ロールプレイ】 4 課題解決の方法を探ろう(5時間) 14-15 ・インドネシアの村でのボランティア【フォトランゲージ・対比表】 16 ・ちがいを越えて(ハーフの先輩から話を聴こう)【ロールプレイ】 17 ・貧困の連鎖を断ち切る方法を探ろう 18 ・国際協力で大切な視点～海外で活躍する日本人からのメッセージ～ 5 自分たちにできることを考え、学んだことを発信しよう(6時間) 19-23 ・各グループのテーマに沿って追究しよう 24 ・学習発表会「世界はひとつ～届け、幸せのメッセージ～」 25-26 番外編 パラグアイのゴマを使ってゴマ団子づくり(2時間) 6 国際理解のまとめ～国際協力と夢～(2時間) 27-28 ・元青年海外協力隊の方から話を聞こう。	ワークショップ版世界がもし100人の村だったら JICA「どうなってるの? 世界と日本」 パラグアイの写真カード チョコレートパッケージ ジャガイモ 大切な物の絵 インドの映像 なりきりカード FIWC東海委員会 ラッシュセリーナ萌さん 国際理解教育資料集 パラグアイインタビュー 動画 ゴマ・もち粉 稲葉健一さん
成果	<p>パラグアイをはじめとする世界の様々な課題を知り、課題解決の方法を考えたり、世界と日本とのつながりや幸せについて考えたりしたことで、自分と無関係だと思っていたことが身近なこととして捉えられるようになった。また、積極的に他者と関わったり、相手の立場に立って手助けをしたりする機会が増えた。学習発表会では、これまでの学習で気付いたことや学んだことを自分たちの言葉で発信することができた。</p>		
課題	<p>パラグアイをはじめとする様々な教材を児童に与え、参加型手法を用いて取り組むことにより、情報の中から課題を見つけ、解決方法を考えるという経験ができた。しかし、総合的な学習の時間の探究プロセスの中に位置づけられている「情報の収集」についてはほとんどできなかった。さらに気になったことや疑問に思ったことを追究する機会を設定できるとよい。</p>		
備考	<p>参加型手法を効果的に用いることで、学びに深まりが出た。国際協力の現場で活動する方たちや当事者と出会うことで、現実実がわき、自身の可能性に気付くことができた。</p>		

[授業実践の詳細]

2-3 時限目「世界がもし100人の村だったらワークショップ」

この時限のねらい

- ・世界の現実についてシミュレーション(疑似体験)を通して体験的に学び、自分たちが暮らす日本が世界の中でどこに位置するのかを考える。

1 児童生徒の活動の流れ

- ① スライド資料<教材1>を用いてクイズを何問か行った後、以下の問題を行い、近くの人と相談したり、実際に役割カード<教材2>に従って分かれて、そのスケールを体感したりする。【シミュレーション】
 - ・「女性と男性どちらが多い?(男女の比率)」「インドや中国で女性よりも男性の方が少ないのはなぜでしょう。」「大人・子ども・高齢者の割合はどれくらいでしょう。(日本の割合と比較)」「世界のどの地域にどれくらいの人住んでいるでしょうか。(地域ごとに分かれる)」
- ② 地域ごとの一人にロープ<教材3>を渡し、ロープで作った枠の中に入る。その状況を見て、どんなことに気付いたかを話し合う。【シミュレーション】
- ③ 役割カードの記号別に分かれ、どんなちがいで4つに分かれたのかを考える。(栄養をとり過ぎの人14%、栄養が十分でない人13%、死にそうな人1%、その他の人72%)
- ④ 「どの言語が世界では多く話されているでしょう。」役割カードの同じ言語同士で集まる。世界で文字の読めない人が約2割いることを知る。【シミュレーション】
- ⑤ 文字が読めない役割の3人で【ロールプレイ】
 - ・薬を買いに来たという設定でなぞの文字が書いてあるペットボトルの飲み物<教材4>を飲んで感想を聞く。
 - ・「水」「薬」「毒」と書いてあることを知る。
- ⑥ 本時の学習を振り返り、近くの人と感じたことを話し合う。

2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 積極的に活動に参加し、世界の实態を体感できたため、言語や食糧不足の实態を知り、驚く児童の様子が見られた。
- ◇ 世界の課題について興味をもち、今後の総合的な学習(国際理解)に関心をもつことにつながった。



<なぞの文字のラベル>



<地域ごとに分かれるとアジアはせまい!!>

3 使用した教材

<教材1> スライド資料(Microsoft Power Point で作成)※

<教材2> 役割カード※

<教材3> 地域別の面積比に応じた長さに切ったロープ※

<教材4> なぞの文字を書いたペットボトルの緑茶・ミネラルウォーター・ジャスミン茶

※の教材は全て、『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら<第5版>』2016、開発教育協会 を参考に作成または引用。

6 時限目「日本と世界とのつながりを知ろう ～パラグアイ編～」

この時限のねらい

- ・日本とパラグアイとの共通点や相違点を発見し合う中で、日本と世界とのつながりを理解する。

1 児童生徒の活動の流れ

- ① 第一印象から考えたことを伝え合う。【フォトランゲージ】
 - ・各グループに人数分の枚数の別の写真<教材5>を配り、一人1枚の写真を見てその写真からわかることを読み取る。
 - ・グループの他の児童に自分の写真の説明をする。
- ② 写真について知る。
 - ・すべてパラグアイの写真であること、日系人が多く住んでいること、発展途上国で、貧富格差などの課題があることを知る。
 - ・写真の解説カード<教材6>を配付し、自分の写真の解説を読む。解説カードは自分のもののみ読み、見せ合わない。
- ③ パラグアイと日本の共通点と相違点を対比表にまとめる。【対比表】
 - ・自分が知ったことをグループ内で伝え合いながら、対比表に日本との共通点と相違点をまとめる。
- ④ 他のグループと共有する。【ギャラリー方式】
 - ・ギャラリー方式で、他のグループが作った対比表をそれぞれ見に行き、「いいな」「なるほど」と思ったものに☆をつける。
- ⑤ 本時の学習を振り返り、近くの人と感じたことを話し合う。

2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ これまで全く知らなかったパラグアイという国と日本とが深く関わっていることに気付いた児童がいた。
- ◇ 解説を伝え合ったり、対比表を作ったりする協同的な活動を通して、「他の子の意見を聞くことで、自分にはない考え方が分かった。」「他のグループからもいろんな考え方や気づきがあるのを知れてよかった。」というような、他の児童を肯定的にとらえ、深い学びのある学習となった。
- ◇ パラグアイに対して、「スラム街に住む人たちに政府はどのような政策をしているのか。」など、新たな疑問をもつ児童もあった。



<日本と同じようなこともたくさんあるね>

共通点 (同じところ・似ているところ)	ちがうところ
<ul style="list-style-type: none"> ・木がある ・お肉、お魚を食べる ・甘い砂糖(い) ・農家畑の跡地がある。 ・イスと机で授業をしている。 ・学校がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜をあまり食べない ・病気にかかりやすい ・ヒアスをつけている(子ども) ・教科書がない ・机が他の机とくっついている ・雨の日は学校に通えない ・1つの黒板に1日分の板書が書いてある。

<日本から一番遠い国なのに共通することもたくさんあるね>

3 使用した教材

- <教材5> 教師海外研修で撮影したパラグアイの写真 A:日本語学校の習字、B:日本食を食べるパラグアイ人家族、C:都市ビルとスラム街、D:第3946番小学校、E:イトウルベ市の農家
- <教材6> 写真の解説を書いたカード

7 時限目「日本と世界とのつながりを知ろう ～日本の食事編～」

この時限のねらい

- ・日本の食料が海外からの輸入に頼っていること、
- ・児童労働の問題について考えることにより、日本と世界とのつながりに気付く。

1 児童生徒の活動の流れ

- ① 日本が世界からの輸入に頼っていることを知る。
 - ・日本の自給率は40%。もし日本で作られたものだけで食事をするとうなるか、話し合う。
- ② チョコレートの原料カカオ豆の実態を知る。
 - ・チョコレートのパッケージ<教材7>を配り、色や味のもとになっている原料はどれか考える。
 - ・各グループに資料<教材8>を配付し、8分間一人一人が何枚かの資料を読む。
 - ・読んだ資料からわかったことを伝え合いながら書きだす。【ブレインストーミング】
- ③ カカオ豆農家について知る。
 - ・DVD<教材9>を視聴し、カカオ豆農家の様子、子どもが行う作業、「児童労働の背景」貿易の仕組みについてイメージをもつ。
- ④ 自分たちにできることを考える。
 - ・カカオ産業の児童労働をなくすために、アクションリストに自分のアイデアを一つ加える。<教材10>
 - ・優先順位をつけてランキングシートに書きこむ。【ランキング】
 - ・自分のランキングシートをグループで見せ合い、他の児童の考えを聞く。
- ⑤ 本時の学習を振り返り、近くの人と感じたことを話し合う。

2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ アクションリストに加えた考えの中に「身近な人にフェアトレードのことを伝える。」「児童労働の実態を周りの人に伝える。」というすぐに行えることから「児童労働の実態をカカオを作っている国が調査するように呼び掛ける。」「学校に行けない子どものために日本から勉強を教える人を送る」という国際協力につながるような意見も挙がった。
- ◇ 班の仲間と情報をやりとりし、進んで自分の考えをグループの仲間に伝えられた児童は79%、他の児童の意見をしっかりと聞くことができた児童は93%であった。
- ◇ ランキングの優先順位は児童によって多様であるため、意見の違いを認め合ったり、考えを深めたりする活動に楽しさと充実感を得るとともに、他者の意見を肯定的に捉えられるようになった。

<p>カカオ産業の児童労働をなくすために、わたしたちができること</p> <p>A 日本産のチョコレートで児童労働をなくすために活動している団体のイベントや講演会に参加する。</p> <p>B 日本産のチョコレートで児童労働をなくすために活動している団体のイベントや講演会に参加する。</p> <p>C カカオ産業の児童労働について、身近にいる人たちと話をする。</p> <p>D 自分たちのアイデアを身近な人に「フェアトレード」のチョコレートを買う。</p>	<p>E 日本産のチョコレートで児童労働をなくすために活動している団体のイベントや講演会に参加する。</p> <p>F カカオ産業の児童労働について、身近にいる人たちと話をする。</p> <p>G 自分たちのアイデアを身近な人に「フェアトレード」のチョコレートを買う。</p>
--	--

ランキングシート
自分ができる順・効率が大きい順など、理由も考えながら順位をつけてください。

<教材10 人によって考え方が違う>



<他の児童の意見を肯定的に受け止めていた>

3 使用した教材

<教材7> 市販されている数種類のチョコレートのパッケージ

<教材8> ウェブサイト「世界の子どもを児童労働から守るNGO ACE」

<http://acejapan.org/childlabour/materials/workshop-chocolate> を参考に作成した自作資料 A:カカオ豆の作られている地域、B:アフリカの児童労働、C:カカオの貿易や価格のしくみ、D:フェアトレードチョコレート

<教材9> 『おいしいチョコレートの真実～働くこどもたちとわたしたちとのつながり～』附属 DVD

<教材10> アクションリストとランキングシートを記載したワークシート

10 時限目「日本とパラグアイの子どもの大切なもの」

この時限のねらい

- ・ 価値観の多様性を理解する。

1 児童生徒の活動の流れ

- ① 自分にとっての幸せについて考える。【ピラミッドランキング】
 - ・ 幸せリストから6つを選び、ピラミッドランキングにする。〈教材11〉
 - ・ グループでランキングを発表し合い、一番にした理由を伝え合う。
- ② パラグアイの子どもたちの幸せを知る。【対比表】
 - ・ パラグアイの子どもたちの大切なものと、幸せだと感じること〈教材12〉を見て、自分たちが考えた幸せと比較し、対比表にまとめる。
 - ・ ギャラリー方式で、グループの他の児童の意見を見てまわる。
- ③ パラグアイの子どものアンケートの一人の意見について考える。
 - ・ 「幸せでない」と考えた15歳の子の理由を読み、意見を話し合う。〈教材13〉
- ④ 本時の学習を振り返り、グループで話し合う。数名の意見を全体でも共有した。

2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 「幸せ」について深く考えたことがなかったという意見や、多様な価値観に気付くことができたという意見が多くあった。貧困なのに幸せだということが疑問だった児童が、家族がそばにいること、支え合っていることで幸せに感じることができるということに気付くことができた。
- ◇ 15歳の子の考えに驚く児童、共感する児童が多かった。「幸せではないという発言に驚きました。」「誰もが幸せになってほしいということが夢なんて考えたことがなかった。」「世界中には家がない人、家族のいない人がある。そんな人たちを幸せにしないと、彼女は幸せになれないのでしょうか。」「平和を自分たちの手で作っていかないといけないと感じた。」「今の自分は自分の幸せしか考えていなかったもので、人の幸せを考えられるようにしたいです。」

3 使用した教材

〈教材11〉 幸せリストとピラミッドランキングを記載したワークシート

〈教材12・13〉 教師海外研修で現地校の先生に協力していただいたアンケート用紙から作成

幸せリストから6つを選ぶ (1つまで追加することができます)

ご飯を食べられること	友だちと話ができること	家族と一緒にいられること
スポーツができること	教科書を使って勉強できること	健康な体でいられること
お金に困っていないこと	自然がいっぱいあること	学校に通えること

幸せピラミッドランキング

これを一番にした理由
みんなといっしょにいられたいから、たまたまあつたりするから。


家族や友達といっしょにいられること

健康な体でいられること ご飯を食べられること

お金に困っていないこと 学校に通えること 教科書を使って勉強できること

〈クラスの中間の幸せの捉え方は共通することが多い〉

「幸せですか？」という質問に「幸せでない」と答えた1人の15歳の女の子



「幸せでない」と答えた理由
No soy feliz, porque veo a tanta gente sufriendo. Me refiero a aquellos que ni tienen hogar. Hay tantos huérfanos que quicieran una familia. Por estas y muchas otras cosas.

幸せじゃないです。理由は、苦しんでいる人をたくさん目にするからです。例えば家がない人たちがいます。家族を欲しがっている孤児もたくさんいます。他にもたくさんありますが、このような理由で私は幸せではありません。

「夢は何ですか？」の答え
Mi sueño es mimim pues mi sueño. Osea el sueño que siempre quise es de que todos seamos felices. Pero por lo que veo eso. Practicamente es imposible de cumplir.

私の夢は、私の夢です。
つまり、常に夢見ているのはみんなが幸せになることです。
でも、今のところ現実的にこの夢を叶えるのは無理そうです。

〈ひとの幸せを自分の幸せと考える新たな価値観に驚いた〉

16 時限目「ちがいを越えて（ハーフの先輩から話を聴こう）」

この時限のねらい

- ・ちがいを越えて、相手を受け入れる、相手と接する姿勢を身に付ける。

1 児童生徒の活動の流れ

- ① 日本人はどれでしょうかクイズ
 - ・6人の日本人の写真を見て、どの人が日本人なのかを考える。実際はすべて日本国籍をもつ日本人だが、顔や肌の色の特徴で、日本人というイメージをもっている自身のステレオタイプに気付く。
- ② 教師とゲストティーチャーの対話
 - ・子どもの頃、つらいと感じたこと。
 - ・多国籍な国と比べると、日本でハーフの人の数はまだ少なく、生活の中でぶつかる問題は多い。
- ③ 初対面でのあいさつ【ロールプレイ】
 - ・日本人への初対面のあいさつと、ハーフの人とのあいさつを比べ、違うと感じたことを話し合う。
- ④ 嫌だったことや面倒だなと感じたこと、嬉しかったこと。
 - ・日本人に見えないね。 ・ハーフっぽくないね。 ・日本語うまいね。 ・ハーフであることを何も聞かれないと、自分をありのまま受け入れてくれる感じがした。



<卒業生の先輩から多くのことを学び、身近なことで捉えることができた>

2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ 日本人というイメージのステレオタイプに気付くことができた。
- ◇ ありのままに受け取れることの大切さを実感した。

3 使用した教材

<教材14> 自作のスライド資料(Microsoft Power Point で作成)

19-24 時限目「自分たちにできることを考え、学んだことを発信しよう」

この時限のねらい

- ・総合的な学習の時間(国際理解)で学んだこと、考えたことを元に、各クラス、班ごとに伝えたいことをまとめ、プレゼンテーションや劇などにまとめ、発信する。

1 児童生徒の活動の流れ

- ① それぞれの班のテーマごとに学んだこと・伝えたいことを書き出す。【ブレインストーミング】
- ② 伝える方法を考え、さらに調べたいことを追究する。
- ③ 台本を考え、資料や小道具をつくり、発表の練習を行う。
- ④ 学習発表会「世界はひとつ～届け、幸せのメッセージ～」
[発表内容]

第1部 チョコレートの真実～世界のさまざまな課題～

- 食料自給率から世界と日本のつながりを考える
- チョコレートを例に児童労働へ加担している実態



- 学校に行けない子どもたちの実態 ○自分にできること(フェアトレード) <国際協力にとって大切な姿勢を劇で伝えた>

第2部 パラグアイから考える幸せ

- 日本人はどれでしょうクイズ(見た目で判断しない) ○パラグアイにある日本文化
- 日本とのつながり(国際協力・ゴマ) ○パラグアイの課題(貧富格差等)→幸せと感じている人が多い
- 人を大切にす文化 ○幸せって何だろう?(パラグアイの子どもたちが描いた絵・アンケート)

第3部 世界の課題を解決するための姿勢

- 先輩から学んだ「ちがいを受け入れる」「知ることで、問題は起きなくなることがある」
- インドネシアの村でのボランティアから学んだこと「言葉を越えて、仲良くなるためには」
- 外国人観光客に「笑顔」でインタビューをした経験。
- パラグアイで国際協力に関わっている人たちの姿勢から「現地に足を運び、現地の人と一緒に考え、一緒に悩むことが重要」

第4場面 わたしたちの行動宣言+学年合唱「U&I」

2 児童生徒の活動の成果・反応

- ◇ ゴマの輸入割合を円グラフで表したり、イラストを用いたりしてわかりやすいプレゼン方法を考えた。
- ◇ パラグアイの農村部での国際協力の例を劇で表現した班は、セリフを何度も考えたり、小道具を使ったりしてわかりやすい事例を出して伝えた。
- ◇ パラグアイと日本の子どもたちの「幸せ」について学習したことから、聞いている人にうまく伝えるために、場面を設定して、わかりやすく劇にして伝えることができた。
- ◇ テーマと合った学年合唱「U&I」を心を込めて歌い上げ、保護者や参観者の感動を呼んだ。

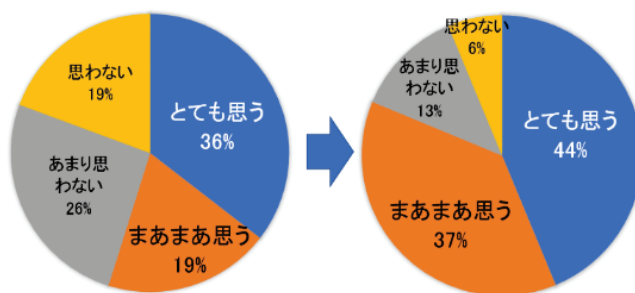
3 使用した教材

<教材17> 児童が画用紙に書いた資料またはこれまでの学習で使用した資料を読み込んで作成。

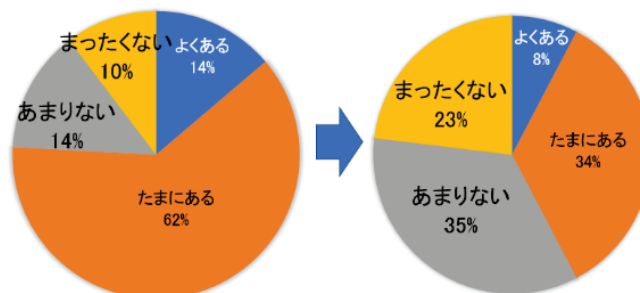
■ 全体を通して

本実践では、参加型手法を用いた協同的な活動を通して得た「気づき」を、他者と共有する時間を大切にしました。また、学習発表会で発信するために準備する段階で、仲間同士で学びを深めることができた。実践前後のアンケート調査で、「自分たちの努力で、平和な世界にすることができる」と答えた児童が54.8%から81.3%(約1.5倍)に増えた。苦手な人と関わらないように「していない」児童が24.1%から57.7%(約2.4倍)に増えた。文化や価値観の違いを越えて理解すること、積極的に他者と関わることの喜びや楽しさを実感した児童が多かったからだと考えられる。

自分たちの努力で平和な世界にすることができる



苦手な人と関わらないようにしている



1 授業の様子



<4時限目 パラグアイに折り紙と絵を届けよう>



<ゲストティーチャーの話を受けて考えを深めた>

2 参考文献・資料

- 1) 『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら<第5版>』 2016 開発教育協会
- 2) 『おいしいチョコレートの真実～働く子どもたちとわたしたちとのつながり～』 2008 特定非営利法人 ACE
- 3) 開発教育・国際理解教育指導者研修(実践編) 資料
- 4) 国際理解教育実践資料集 2013 国際協力機構(JICA) 地球ひろば